

## 地域づくり提案事業 成果検証報告書

## 【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度

27 年度

市町村名	小鹿野町					
提案事業名	観光まちづくり推進事業					
事業期間	平成25年度 ~ 平成25年度					
成果指標	(成果を検証する指標) 観光入込客数					
	(成果検証の具体的な方法) 観光施設の入館者やハイキング・登山客、札所巡りなど町を訪れる全体の入込観光客数を把握することにより成果を検証する。					
	(成果の目標値に対する実績)			達成度	C	
	従前値 (23年1月～12月 時点)	227,319	目標値 (26年1月～12月 時点)	250,000	実績値 (26年1月～12月 時点)	239,610
	(施設建設等の場合の実績)					
	年間利用者数 (人)	(目標) (実績)		稼働率 (%)	(目標) (実績)	
住民への公表状況 及び特記事項		町広報及びホームページに掲載して公表する				

## 【事業効果の整理・原因分析】

平成25年度 構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 観光トイレ設置事業	○	<p>小鹿野町は、観光客の増加に伴い、トイレの数が観光客の人数に対応しきれていないことが問題となっていた。そこで、町歩き周遊ルートの始点（終点）である小鹿野町役場向かいに多目的トイレを設置したことで、町歩き観光客の利便性の向上を図ることができた。さらに、道の駅「両神温泉薬師の湯」の隣接地のバスターミナルに隣接した場所に多目的トイレの整備を行ったことで、短い乗り継ぎ時間（1～2分）でも両神山登山者などの観光客や町民がスムーズにトイレを利用できるようになり、待ち時間による苦痛や不満を解消することができた。こうしたことにより、町営バスを利用した観光客も多い、「両神山麓花の郷ダリア園」の入園者数は平成25年度と比べて7,000人の増加であった。しかし、小鹿野町全体の平成26年中の観光入込客数は239,610人に止まり、目標に達することはできなかった。</p> <p>これは、平成26年2月8日及び14日・15日の未曾有の大雪により、例年2月下旬まで行っている尾ノ内溪谷ライトアップが中断され、節分草園の節分草の開花が大幅に遅れるなど冬場の観光地である、尾ノ内溪谷・節分草園・福寿草園でそれぞれ平成25年度と比べ観光入込客数がそれぞれ10,000人・4,000人・4,000人減少し、その他にも観光農園のハウスが倒壊するなど、多くの観光地に影響を及ぼしたことが一つの要因であると考えられる。</p> <p>観光トイレ設置事業は、町めぐり・回遊に利便性・快適性の高い町をアピールすることで、小鹿野町のリピーターを増やすことを目的としており、今後の観光入込客数の増加が期待できる。</p>

② 町歩き事業	○	秩父地域おもてなし観光公社とタイアップして、里山案内人とともに歩く町歩きを実施した。町なかの歴史的建物や路地の案内を行う町中散策案内を2回、四阿屋山のハイキングを1回の計3回行い、29人に参加いただき、町の魅力を発信する機会を創出できた。普段の観光では決して通ることの出来ないルートもたいへん好評であった。
③ 観光案内板整備事業	△	市街地に通りの名称や古い商家の説明板を設置したことで、町なか歩き・回遊をする観光客に見所をわかりやすく示すことができた。それにより、町歩きの楽しさや、小鹿野町の魅力をアピールできた。しかし、町歩きの認知度はまだまだ低く、より多くの観光来訪者に小鹿野町の町歩きをしていただき、観光案内板を活用していただくために今後対外的なPRを図っていく必要がある。

### 【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について十分に成果が認められた点	観光トイレを整備したことで、平成25年に増加観光客に対して利便性や快適性を提供することができた。また、町営バスの再編やバスターミナル整備により、更に観光しやすい環境の改善を図ることができた。町歩き事業ではパンフレットなどで伝えきれない小鹿野町の魅力を案内人を通して効果的に伝えることができた。今後、町歩き事業と観光トイレの整備による相乗効果が期待できる。
実施事業について成果が不十分である点	町歩き事業については、町ホームページに案内ページを作成したが、PR効果があまり進んでいない現状もある。今後も引き続きホームページ・パンフレット、イベント等におけるPRを積極的に行い、多くの来訪者に小鹿野町の魅力を発信できるよう努める。
成果検証を踏まえた今後の改善策	小鹿野町のホームページや観光パンフレットの充実、春まつりや各地域での祭り・歌舞伎などのイベントでのPR活動によってさらに効果的に観光情報や小鹿野町の魅力を発信する。また、新たな観光資源の掘り起こしや観光エリアやジオパーク関連施設、食などを連携させた事業展開等に努めていくものである。新たに設置したトイレの維持管理を適正に行うとともに観光地等の環境美化にも配慮し、観光来訪者に心地良い環境の提供に努めるものである。

(記入上の注意)

#### 【成果指標の達成状況】

・達成度(A・B・C)の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」 目標値に対する実績値の伸び率が80%以上の場合

$$\text{実績値} \geq (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度B」 目標値に対する実績値の伸び率が60%以上80%未満の場合

$$(\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値} \leq \text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 80\% + \text{従前値}$$

「達成度C」 目標値に対する実績値の伸び率が60%未満の場合

$$\text{実績値} < (\text{目標値} - \text{従前値}) \times 60\% + \text{従前値}$$

#### 【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果(○・△・×)の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果○」 事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」 事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」 事業効果の発現がほとんど認められない